

会 議 録

1 会議名

令和4年度第1回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項

（1）住みやすい安塚の在り方について

○その他（公開）

3 開催日時

令和4年4月4日（月）午後6時30分から午後7時48分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二、
外立正剛、秦克博、松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 小林所長、大島次長、小林市民生活・福祉グループ長（併
教育・文化グループ長）、村松班長、萬羽主任

8 発言の内容（要旨）

【大島次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【松苗正二会長】

- ・挨拶

【大島次長】

本日の会議録の確認は、内規により松苗正二会長にお願いする。

条例第8条第1項の規定により、松苗正二会長から議長を務めていただく。

【松苗正二会長】

それでは、次第3自主的審議事項（1）住みやすい安塚の在り方について、から議事を進めていく。

3月29日（火）に小委員会を開催し、前回までの地域協議会で皆さんから協議いただいていたアンケートの内容について、引き続き検討を行ったところである。前回までの案については、アンケートのボリュームが大きいとの意見も出ていたことから、設問数を絞るとともに不足していると考えられる部分の設問を追加している。これにより、内容の濃いアンケートになったと思っている。変更点を簡単に説明すると、前回の案にあった設問のうち、問20や問21といった辺りの設問を削っている。また、今回新たに問14を追加している。「20代～30代の若者から安塚区内へUターン・Iターンをしたいと相談されたら、あなたはどうか答えますか。」という設問である。

事前に内容を確認いただいていると思うが、何か意見等ある方はいるか。

【池田康雄委員】

3点ほど検討いただきたい事項がある。

私の知り合いの3名の方から、このアンケートの案に回答してもらった。70代男性、40代女性、中学生の女性の3名である。その結果を踏まえての意見である。

まず、先ほど松苗会長から話のあった問14の「20代～30代の若者から安塚区内へUターン・Iターンをしたいと相談されたら、あなたはどうか答えますか。」という設問についてである。このアンケートは、安塚区にお住まいの中学生以上の方を対象に実施するものであり、参考に回答してもらった中学生の女性から、「問14はどう答えたらよいか、悩んでしまう」というような話があった。現実問題として、UターンやIターンという人生に関わるような事柄を中学生に聞く人がいるとは思えないが、その中学生の方は回答に困っていた。アンケート用紙の最初にアンケートへのご協力をお願いという文章が載っており、その中に「皆様の率直な思いをお聞かせください。」との記載があるが、例えばその後に「難しいと思う設問については、わからないという選択肢を選んでください」というような文言を追加したらどうか。

次に参考資料として配布されている島根県の海士町のアンケートを見ると、アンケートの最後に「生まれた時から海士町にお住まいなのか、ある時期は離れていて戻ってきたのか、海士町以外から移住してきたのか、について教えてください。」という設問がある。安塚区内にもUターンやIターンをしている方がいると思うので、この設問を追加したらどうか。

最後に問4の「15. 食料品や日用品等の購入について」という選択肢についてである。この選択肢は、小委員会で検討した結果、追加されたものだと思うが、これとは別に「買い物や通院の外出支援」という選択肢を追加してはどうかと考えた。食料品や日用品の購入というのは、お店の問題のことを指していると思うが、買い物や通院の際の交通手段があるかどうかという問題もあると思う。

以上3点について、協議をお願いしたい。

【松苗正二会長】

ほかに意見等あるか。

(意見なし)

それでは、今ほど池田康雄委員から意見のあった3点について、協議を行う。

まず、1点目として、「難しいと思う設問については、わからないという選択肢を選んでください」というような文言を追加してはどうかという意見があった。これについて、意見のある方はいるか。

【吉野誠一委員】

それは、わからないという回答に誘導することになる恐れがあり、そういうことをしてはいけないと思う。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

【池田裕夫委員】

全14問を見ると、ほとんどの設問で「わからない」、「どちらともいえない」といった選択肢が用意されているため、このままでよいと思う。

【松苗正二会長】

池田康雄委員の意見は、このアンケートの案を実際に住民の方に回答してもらい、その時の回答者の反応を踏まえて提案されたものであると思うが、問14についても、「5. わからない」という選択肢が用意されている。ほとんどの設問でそのような選択肢が用意されていることから、「難しいと思う設問については、わからないという選択肢を選んでください」というような文言を追加しなくてよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、原案どおりとさせていただきます。

次に2点目として、海士町のアンケートを参考に「生まれた時から安塚区にお住まいなのか、ある時期は離れていて戻ってきたのか、安塚区以外から移住してきたのか」を

聞く設問を追加してはどうかという意見があった。これについて、意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

これについては、私ももっともだと思ったので、追加してもよいと考えている。海士町のアンケートでは、最後にこの設問が用意されているということであったが、むしろ最初の方がよいと思っている。例えば問2か問3の後くらいである。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。外立委員はいかがか。

【外立正剛委員】

中村委員の意見のとおりでよいと思う。

【松苗正二会長】

新保委員はいかがか。

【新保良一委員】

私も同意見である。追加してもらった方がよいと思う。

【松苗正二会長】

この設問を追加した方がよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、追加することとしたいと思うが、どのように追加したらよいか。海士町のアンケートのとおりでよいか、それともほかに意見のある方はいるか。

【吉野誠一委員】

文言については、後で検討することとしてはいかがか。

【松苗正二会長】

後で検討を行うこととする。

最後に3点目として、問4に関して、「買い物や通院の外出支援」という選択肢を追加してはどうかという意見があった。これについて、意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

追加することに反対はしないが、追加するのであれば、「暮らしの中で、悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。」という設問であるので、選択肢は「外出の支援」という言い方よりも「外出の交通手段について」や「外出の足について」というような表現の方がよいと思う。

【新保良一委員】

「15. 食料品や日用品の購入について」という選択肢があるが、回答者にとっては、お店が近くになくて困っているかどうかを問われているのか、それとも出かけるための足がなくて困っているかどうかを問われているのか、判断に迷ってしまうと思う。どちらの意味にも取れてしまう。

【吉野誠一委員】

どちらも含めて、不安があるのではないか。

【新保良一委員】

そうであれば、選択肢を追加した方がよいと思う。

【松苗正二会長】

小委員会でも同様の議論をしていたと思うが、回答する方の判断に任せてよいのではないかという意見もあった。小委員会で一度検討を行い、現行の案がまとまっているので、このままでよいと感じている。吉野委員はいかがか。

【吉野誠一委員】

小委員会でそのような議論をしていたと思う。足がなくて不安に思っている場合でもよいし、お店等が少なくて不便だと思っている場合でもよい。それも含めて、「食料品や日用品の購入について」不安があるかどうか、答えてもらえればよい。

【松苗正二会長】

小委員会での検討結果を踏まえ、原案どおりとさせていただきたいと思う。ほかに意見等あるか。

【吉野誠一委員】

アンケートの実施日が近づいてきたので、予行演習をするのはそろそろやめた方がよいのではないか。

【松苗正二会長】

承知した。ほかに意見等あるか。

それでは、私の方から1点お願いしたい。問14について、最もよく当てはまるものを1つ選んで○をつける設問であるが、問12と問13ではそれに加えて理由を聞く形になっている。問14についても、同様に回答の理由を聞きたいと考えているが、いかがか。意見のある方はいるか。

(意見なし)

理由を聞いた方がよいと考える方は挙手をお願いしたい。次に理由は不要であると考え

える方は挙手をお願いしたい。

（「理由は不要である」 多数）

それでは、原案どおりとする。

次に先ほどの協議の結果、海士町のアンケートを参考に追加することとなった設問について協議を行う。

【吉野誠一委員】

それは具体的にどういう設問なのか。

【松苗正二会長】

事務局の方から海士町のアンケートの内容を紹介してもらいたい。

【萬羽主任】

海士町のアンケートでは、「生まれた時から海士町にお住まいなのか、ある時期は離れていて戻ってきたのか、海士町以外から移住してきたのかについて、教えてください。戻ってきた人や移住してきた人は何年前に海士町に住み始めたのかについても、おおよそで構いませんので、数字を記入してください」という設問になっている。選択肢としては、「1. 生まれた時から海士町に住んでいる」、「2. 海士町で生まれて離れていたが、[] 年前に戻ってきた（Uターン）」、「3. 海士町以外で生まれたが、[] 年前に移住した（Iターン）」という3択になっている。

【松苗正二会長】

この文言でよいと考えているが、意見のある方はいるか。

【小松光代委員】

この3択だと、私の場合はどこにも丸をつけられない。UターンやIターンというような括り方をされると、例えば結婚をしてほかのところから安塚区に来た人は、どこにも丸をつけられないと思う。UターンやIターンをしてきた人がどれくらいいるのかを掴みたいというアンケートの趣旨であると思うが、これだと丸をつけられない人がいると感じている。

【松苗正二会長】

小松委員としては、「結婚により、安塚区に来た」とか、「その他」のような2項目くらいを追加すればよいということか。

【小松光代委員】

この3択では、丸をつけられないと感じている。

【外立正剛委員】

70代くらいの人の中には、東京に集団就職した後、こちらへ戻ってきて安塚区の人と結婚をしたという人がいると思うが、そういう場合はどこに丸をつければよいのか。Uターンになるのか、Iターンになるのか。選択肢は3つでは足りないと思う。

【松苗正二会長】

今ほどの例の場合は、2番にあたるのではないか。

【外立正剛委員】

回答する人がそのように理解できればよいが。

【吉野誠一委員】

UターンやIターンという言葉を使うから難しくなると思う。

【中村真二委員】

何の数字を掴みたいのかによると思う。いわゆる移住者の数を知りたいとなれば、「あなたはUターンにあたりますか、Iターンにあたりますか」という聞き方がよいと思う。結婚を機に安塚区へ来た人の中には、自分はIターンのつもりではないという人もいると思う。このような聞き方であれば、自分は移住者であるという認識の人が回答してくれる気がする。言葉の定義は敢えて書かないで、UターンかIターンかどうかを聞くということである。

【松野修委員】

難しいように感じる。

【中村真二委員】

結婚を機に安塚区へ来た人は、我々が知りたい移住者とは違うものと考えている。

【池田康雄委員】

UターンやIターンという言葉は使わない方がよいと思う。

【中村真二委員】

いわゆる移住者を知りたいということであれば、どれにも当てはまらない場合は「わからない」と回答してもらってよいと思う。「あなたは移住者ですか」という設問にして、「1. 移住者である（Uターン）」、「2. 移住者である（Iターン）」、「3. 移住者ではない」、「4. わからない」という形にしてはどうか。

【吉野誠一委員】

海士町のアンケートは、まちの魅力度を図るためにUターンやIターンの人がどれくらいいるのかを聞こうとしているのだと思う。

【松苗正二会長】

この設問は、生まれた時からそこに住んでいるのか、移住してきたのかを知るための設問であると思うので、2番目の選択肢として、「安塚区以外で生まれたが、安塚区へ移ってきた」という選択肢にすれば、全て網羅できると考えている。このような形にすれば、それほど選択肢を増やさなくてもよいと思う。

【池田康雄委員】

もう一度お願いしたい。

【松苗正二会長】

この設問は、移住者がどれくらいいるのかを知るための設問であると思うので、結婚を機にといった内容を回答に含めるのではなく、2番目の選択肢として、「安塚区以外で生まれたが、安塚区へ移ってきた」という選択肢にすれば、全て網羅できるのではないかということである。

【中村真二委員】

その数字はデータとしてそれほど重要でないような気がする。結婚を機に移ってきた人に移住してきたという感覚があるのか疑問に思う。

【石田ひとみ副会長】

例えば、結婚を機に松代や松之山から安塚区へ移ってきた人は、数に入らないということか。

【中村真二委員】

その数が必要かどうかということである。何を知りたいかによると思う。

【石田ひとみ副会長】

ここに魅力があるから移住してきたということにはならないのか。

【中村真二委員】

なると思う。

【石田ひとみ副会長】

どの数を知りたいのか。

【中村真二委員】

先ほどの小松委員の意見では、その点は含んでいないように感じた。結婚を機に移ってきた人も移住者として捉えるということであれば、それでよいと思うが。

【石田ひとみ副会長】

移住者になるのではないか。

【中村真二委員】

大島区から来た人も移住者として捉えることになってしまう。

【吉野誠一委員】

自然や人などの魅力度を図るための一つのものさしとして、このような設問を設けているのだと思う。

【松苗正二会長】

結婚を機に安塚区に来た場合であっても、何かに魅力を感じて来ているのであり、移住者というふうに捉えておかしくないと思う。

【新保良一委員】

少し引かかる。

【松苗正二会長】

選択肢ではなく、設問自体を変えた方がよいか。

【中村真二委員】

改めて私の意見を述べる。アンケートを回答する人自身の意識が移住者なのかどうかを聞けばよいと思う。結婚を機に来た場合であっても、自分は移住してきたわけではないと思っている人は、その数に含まれなくてもよい。繰り返しになるが、「あなたは移住者ですか」という設問にして、選択肢を「1. 移住者である（Uターン）」、「2. 移住者である（Iターン）」、「3. 移住者ではない」、「4. どちらでもない」というふうにしてはどうか。

【吉野誠一委員】

移住とかUターン、Iターンという言葉を使うのは少し棘があるように思う。この町にずっと住んでいますかとか、一旦離れていたが戻ってきたというような柔らかい言葉にした方がよいと感じている。そのような形にすれば、結婚を機に安塚区へ来た人も回答しやすい。

【池田康雄委員】

3番の選択肢について、「安塚区以外で生まれたが、() 年前から住んでいる」という形にしてはどうか。

【新保良一委員】

そこまで細かく聞いて何を知りたいのかと感じる。私は吉野委員が言うようにもう少し簡素化した方が当たり障りなくてよいと思う。何年前から戻ってきたのかを聞いて、どうするのかという話である。

【吉野誠一委員】

非常にプライベートなことであるので、そこまで聞かない方がよいと思う。

【松苗正二会長】

移住されてきた人にお聞きしますという形にして、何年前に戻ってきたかを聞いてはどうか。

【吉野誠一委員】

何年前という情報があるか。プライベートな内容に踏み込み過ぎている。

【松苗正二会長】

設問の内容について、意見のある方はいるか。池田裕夫委員はいかがか。

【池田裕夫委員】

移住者の数を知りたいのだと思うが、移住という設問はハードルが高いように感じる。Uターンの人を移住者として捉えるのかという問題もある。もう少し検討が必要であると思う。

【新保良一委員】

私は、移住者の数を知るよりも、移住者の方が安塚区を住みやすいと感じているかどうかというようなことを聞く方が重要であると思う。

【中村真二委員】

今の点については、移住者と回答した方のアンケートの結果を見れば、移住者の方がどう感じているかというデータは取れると思う

【松苗正二会長】

どこのデータを見るのか。

【中村真二委員】

移住者ですかという設問を入れれば、集計する段階で移住者と回答した人がほかの設問をどう回答しているか分析可能である。

【松苗正二会長】

承知した。

【池田康雄委員】

海士町のアンケートを見ると、年齢構成や出身地などの情報と照らし合わせて詳しく分析しているようである。

プライバシーの侵害と言ってしまうと、何もデータが取れなくなってしまう気がする。

【松苗正二会長】

設問については、海士町のものをベースに考えることとしてよろしいか。秦委員はいかがか。

【秦克博委員】

移住者について、このアンケートで知りたいのであれば、移住者かどうかを聞く設問になると思うが、回答する本人の感覚による部分も大きいように感じる。どのような設問がよいのか、考えがまとまっていない。

【松苗正二会長】

海士町のものをベースに考えてよいか、意見を伺いたい。松野委員はいかがか。

【松野修委員】

海士町のアンケート結果を見ると、何年前からという情報がどこにも反映されていないように感じる。

【池田康雄委員】

分析はなされていると思う。

【松野修委員】

いずれにしても、何年前からという情報は不要であると思う。あとは、UターンやIターンという言葉を使うと、先ほどから議論になっているように結婚を機に来た人が回答しづらいように思う。

【松苗正二会長】

生まれた時から住んでいる、移住者、その他の3択くらいのイメージか。

【松野修委員】

選択肢は、わからないも含めてそれくらいでよい。安塚区に生まれた時から住んでいる人、一旦離れて戻ってきた人、移ってきた人がそれぞれどれくらいいるのかを知るための設問であると思う。

【松苗正二会長】

松野委員から意見があったが、これについて意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

今の案でいくとすると、一応Uターンという文言を入れた方がよい気がする。移住してきたかどうかは、その人の意識によって回答してもらえばよい。例えば、移住してから30年経過していて、もう安塚区の間人であると思っている人はそれでよい。このデータを何に活かしたいかという、移住者であると回答した人のほかの設問に対する回

答の割合と安塚区で生まれた人の回答の割合に明確な差異を見つけられるかということである。移住してきたかどうかは、自己申告で構わない。

【吉野誠一委員】

最後の選択肢は、「安塚区以外で生まれたが、今は安塚区に住んでいる」というような内容にしてはどうか。

【中村真二委員】

それだと定義が複雑になるので、自己申告の方がシンプルだと思う。

【吉野誠一委員】

何を定義するのか。

【中村真二委員】

移住者かどうかを定義するのはその人の意識でよい。具体的に安塚区で生まれたかどうかは、それほど重要ではないと思う。自分が移住者だと思っている人のデータをとった方がよい。

【吉野誠一委員】

小委員会で検討してはどうか。

【外立正剛委員】

「あなたは移住者ですか」と聞いて、「はい」か「いいえ」で回答してもらえばよい。そうすれば、ほかの設問から移住者の考え方が見えてくる。ストレートに聞いた方がよい。

【吉野誠一委員】

結婚を機に安塚区へ来た人に移住者かどうか聞くのは棘があると思う。

【池田裕夫委員】

私も移住という言葉は使いたくない。

【吉野誠一委員】

移住という言葉を使うと棘があるように感じるので、「安塚区以外で生まれたが、今は安塚区に住んでいる」くらいにした方がよい。

【池田裕夫委員】

「1. 生まれた時から安塚区に住んでいる」に合わせるような書き方がよい。

【吉野誠一委員】

そう思う。「2. 一旦安塚区を離れたが、戻ってきて今は安塚区に住んでいる」、「3. 安塚区以外で生まれたが、今は安塚区に住んでいる」くらいにしておけばよいと思う。

【萬羽主任】

事務局から提案させていただきたい。

これまでの皆さんのご意見をお聞きし、基本的には海士町のアンケートを活かしながら検討いただければと思う。設問は、「生まれた時から安塚区にお住まいなのか、ある時期は離れていて戻ってきたのか、安塚区以外から移ってきたのか、当てはまるものに丸をつけてください」という形にしていかがか。また、選択肢は、「1. 生まれた時から安塚区に住んでいる」、「2. 安塚区で生まれて一時離れていたが、その後戻ってきた」、「3. 安塚区以外で生まれたが、安塚区へ移ってきた」、「4. その他」という形にしてはいかかか。

【吉野誠一委員】

それでよいと思う。

【松苗正二会長】

今ほど事務局から提案があったが、その案でよろしいか。

(「はい」の声多数)

それでは、事務局案に沿って進めていく。

ほかに意見のある方はいるか。

(意見なし)

【村松班長】

今ほどの新規の設問について、何番の設問の後に追加するのを協議させていただきたい。

【松苗正二会長】

順番について、意見のある方はいるか。

【新保良一委員】

問14の前でどうか。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

問2か問3の後がよいと思う。

【松苗正二会長】

まず、前半か後半のどちらに入れるのかを決めたいと思う。前半でよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、前半に追加する。問2か問3の後という意見もあったが、どこに入れたらよいか。問2の後がよいと考える方は挙手をお願いしたい。次に問3の後がよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(「問3の後がよい」多数)

それでは、問3の後に追加する。

本日の協議の結果、アンケートの内容は、設問が計15問と最後に自由意見ということに決定した。

【中村真二委員】

最後の自由意見についてであるが、設問が1問追加されたことにより、自由意見の欄が今よりも小さくなると思う。もっとたくさん書きたい方は、裏面に書いてくださいとか、別紙に書いても構いませんというような文言を入れてもよいと思った。

【松野修委員】

そこまではしなくてよいと思う。

【松苗正二会長】

実際にアンケートを回答していただいた方から、文字が小さいというような意見もあったようである。そうすると、全体的にページ数が後ろへ押してきて裏面も使うことになると思う。文字をもう少し大きくした方がよいか。

【山岸重正委員】

私はこれくらいでも十分見える。

【吉野誠一委員】

混み合って読みづらいように感じる。

【中村真二委員】

文字を大きくするよりも行間を空けた方がよいかもしれない。

【松苗正二会長】

中村委員から意見があったが、この意見に賛成の方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、事務局の方で再度調整をお願いしたい。そうすると、4ページ目までかかることになるかと思う。

本日の協議の結果、アンケートの内容が確定した。当初の計画どおり、広報上越5月号の配布にあわせて、4月25日(月)頃に対象者へアンケート用紙を配付することになる。事務局の方から連絡事項等あるか。

【萬羽主任】

アンケート用紙の配布から回収までの流れを説明させていただきます。

まず、アンケート用紙の配布についてである。本日の協議の結果、アンケートの内容が確定したため、明日以降先ほど指摘のあった点を踏まえて体裁を整えたうえで、印刷作業を進めていく。4月25日（月）便の文書配布の前に事務局の方で町内会長・自治会長様のお宅へアンケート用紙をお届けする。お届けする際は、世帯ごとに封筒2点を1セットとする。1点目の封筒には、世帯主名を記載し、封筒の中にその世帯の中学生以上の方の人数分のアンケート用紙を封入する。2点目の封筒は、回収用の封筒とし、こちらは無記名とする。町内会長・自治会長様からは、封筒に記載されている世帯主名を基に各組・各班に振り分けていただき、各組長・各班長様へ4月25日（月）便の文書とあわせて配布いただく。その後、各組長・各班長様から封筒に記載されている世帯主のお宅へ配布いただく。

次にアンケート用紙の回収についてである。各組長・各班長様には、5月8日（日）までに回答済のアンケート用紙が入った封筒を回収し、町内会長・自治会長様のお宅へ届けていただく。5月9日（月）に事務局の方で町内会長・自治会長様から封筒を受け取る予定である。

アンケート用紙の配布から回収まではこのような流れを想定している。

今ほど説明した内容については、4月18日（月）に開催する町内会長・自治会長合同会議において説明を行う予定である。

【松苗正二会長】

事務局から、アンケート用紙の配布から回収までの流れについての説明があったが、質問等あるか。

（質問なし）

アンケート用紙は、対象者の人数分配布されるが、回収の際は1枚の封筒に入れてもらうということか。

【萬羽主任】

回収用の封筒の中に世帯の対象者の人数分のアンケート用紙をまとめて入れていただく。

【松苗正二会長】

回収用封筒は1世帯1枚ということか。

【萬羽主任】

その予定である。

【松苗正二会長】

それでよろしいか。

（「はい」の声多数）

ほかに意見等あるか。

（意見なし）

ほかに意見等なければ、次回の地域協議会の中で意見交換会の実施方法等について協議したいと思う。

以上で自主的審議事項についての協議を終了する。

次に安塚区地域協議会としての審議内容について、確認を行う。事前に事務局へ審議依頼書の提出はあったか。

【大島次長】

事前の提出はない。

【松苗正二会長】

今回審議依頼書の提出はなしということで、審議依頼事項がある場合は、また次回協議会開催日の1週間前までに事務局へ提出をお願いしたい。

次に次回の地域協議会の開催日を確認する。先ほど話したとおり、次回の地域協議会では、意見交換会の実施方法等についての協議を予定している。4月26日（火）に開催したいと思っているが、皆さんの都合はいかがか。4月26日（火）でよろしいか。

（「はい」の声多数）

時間については、いかがか。

【山岸重正委員】

午後7時開始でよい。

【松苗正二会長】

午後7時開始でよろしいか。

（「はい」の声多数）

それでは、次回の地域協議会は、4月26日（火）午後7時から開催する。

その他連絡事項等あるか。

【大島次長】

2点連絡させていただく。

1点目は、学校適正配置の関係である。3月に安塚区、大島区、浦川原区の3区でそれぞれ住民説明会を開催したところであるが、それらの説明会の様子や今後の取組予定について、3区の住民の皆様にご文書を全戸配布し、周知させていただくことになった。次回の地域協議会の中で全戸配布する資料を参考にお示しする予定であるので、ご承知おきいただきたい。

2点目は、安塚雪だるま温泉の入込実績の関係である。このことについては、前回の地域協議会の際に一度お知らせしているが、その後池田康雄委員から月別の実績について問い合わせがあったため、この場をお借りして改めてお知らせする。

まず、キューピットバレイスキー場についてである。シーズン合計の入込数は、54,600人であった。月別に見ると、12月は3,550人、1月は23,500人、2月は17,490人、3月は10,060人であった。

次に久比岐野についてである。シーズン合計の入込数は、3,083人であった。月別に見ると、12月は209人、1月は1,333人、2月は1,033人、3月は508人であった。

【松苗正二会長】

池田康雄委員、今ほどの説明でよろしいか。

【池田康雄委員】

結構である。

【松苗正二会長】

ほかに連絡事項等あるか。

(連絡事項なし)

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。